

LexisNexis PatentSight+ Summit 2025 での泉井裕 氏の講演内容を推測:「アミノサイエンス®を核とした 知財戦略の進化と価値創造」

Claude Opus 4

1. 講演の核心となる戦略的背景

味の素グループの独自科学「アミノサイエンス®」は、アミノ酸のはたらきにこだわった研究プロセスから得られる多様な素材・機能・技術・サービスの総称で、社会課題の解決や Well-being の貢献につなげる独自アプローチを基盤として、知財戦略を展開している点が特徴的です。

2. 講演で紹介される具体的な取り組み

A. 戦略的知財ポートフォリオ構築

- 国内外合わせて約 4,000 件(国内 1,200 件、海外 2,800 件)の特許権を保有し、質と量を伴う戦略的かつ効率的な知財ポートフォリオの高質化
- 食品特許資産規模ランキング 2024 で 1 位を獲得し、継続的な競争優位性を確立

B. Business・R&D・IP の三位一体連携

- R&D・事業戦略と知財戦略が常に同期し、協働して戦略を立案・遂行することで、新領域での事業確立を実現
- オープンイノベーション等、積極的な外部技術の取り込みと連携による知財価値の最大化

C. 4つの成長領域での知財活用 ヘルスケア、フード&ウェルネス、ICT、グリーンの4つの成長領域で、アミノサイエンス®の強みを活かした事業展開における知財戦略の実例紹介

3. 具体的な知財活用事例

半導体材料分野

- 「味の素ビルドアップフィルム®(ABF)」によるマイクロフィルムでの絶縁コントロール技術

バイオ医薬・再生医療分野

- 「高分子量のデキストラン硫酸以外の多糖類を含有する幹細胞培養用添加物」技術
- 米国遺伝子治療薬 CDMO の Forge Biologics 社の約 828 億円での買収

持続可能性関連技術

- SPIBER と共同保有の「高生産性のフィブロインタンパク質の製造方法」

4. 2025 年の知財戦略進化のポイント

グローバル知財管理体制

- 米国駐在員、ロシア専任スタッフ配置、アセアン・南米でのキーパーソン指名による世界展開
- 2023 年設立の「イノベーション戦略チーム」によるオープンイノベーションのグローバル戦略拠点化

価値創造への知財貢献

- 食品業界で他社牽制力ランキング継続 1 位の維持による技術的優位性の確保
- アミノサイエンス®から生まれる発明・差別化技術の広範囲での特許権利化による競争優位性構築

5. 経営レベルでの IP 戦略統合

Summit 2025 のテーマ「Bringing IP to the Boardroom」に沿って、2023 年 7 月に研究畑から知的財産部長に就任した泉井氏の視点から、研究開発と知財戦略の統合による経営価値創造について具体的な成功事例を紹介すると予想されます。

特に 2030 年までに「10 億人の健康寿命延伸」と「環境負荷 50%削減」という 2 大目標達成に向けた知財戦略の貢献度を、定量的データとケーススタディで示すことで、知財部門の経営への直接的インパクトを訴求する内容になると推測されます。

